

東広島市教育委員会定例会（令和2年7月）議事録

- 1 日 時 令和2年7月30日（木）午後1時30分～午後5時10分
- 2 出席者
  - (1)教育長 津森教育長
  - (2)委員 渡部教育長職務代理者、坂越委員、京極委員、島本委員、西村委員
  - (3)事務局 【学校教育部】  
國廣学校教育部長、小川学校教育部次長兼指導課長、三井指導課指導主事、高橋指導課指導主事
  - (4)書記 奥田主査
- 3 場 所 北館201会議室
- 4 議 題  
議案第25号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について【非公開】

再開 午後2時30分

議案第25号 令和3年度使用中学校教科用図書の採択について

- 津森教育長：これからの議題は、議案第25号令和3年度使用中学校教科用図書の採択についてを議題といたします。

それでは、議案第25号の審議といたしましては、本日、中学校で来年度から使用する教科用図書について、各教科、その中の種目に分かれておりますので全部で16種目、それらについて種目ごとに教科用図書を採択してまいります。手順としては最初に選定委員会の委員長から全体についての説明を伺いますので、その選定理由書というのをご覧ください。それに基づいて、委員長に質疑があればさせていただき、質疑終了後に委員長には退席していただき、教育委員のみによる審議を行うということでございます。

それでは、山田委員長の入室を認めます。

山田委員長、大変お忙しいところありがとうございます。

- 山田委員長：よろしくお願ひいたします。
- 津森教育長：よろしくお願ひします。

改めまして各教科、種目ごとの選定委員会の経過につきまして、ご説明いただけますでしょうか。

- 山田委員長：はい、わかりました。私のほうから選定理由書に基づいてご説明をしたいと思います。ポイントに絞ってお話をさせていただければと思います。

国語からですね。全体を通じて、これは共通して教科書を選定する際に皆さんに考えていただいたことといたしますか、共通のこととして結果的にそのようになったんですが、要するに生徒が主体的に学ぶこと、そして自分で問題を見つけてその問題が解決できるような、その手助けになるような教科書というのが今回のキーに

なっているかと思えます。

この国語につきましても、東京書籍さんと光村図書さんの教科書ですけども、どちらもとてもよくできています。ですが、東京書籍さんのほうが、非常に主体的な学びを引き出すという点では少し分があるということです。特に、一番最後下に書いておられますが、その学習状況の最後の振り返りの部分ですね。そんなに大きく変わらないといえますか、どちらもよくできているんですが、最後の振り返りの部分、まとめの部分に少し違いがありまして、東京書籍さんのほうが、学習状況を最初に戻って、そして振り返るようなそういう工夫がされています。ですから、最初に立てた学習目標と最後の振り返ってまとめが対照できるようなそういうつくりになっています。その点で東京書籍さんのほうが優れているという結論になりました。

次に書写です。こちらのほうは三省堂さんを第1推薦としております。第2推薦が東京書籍さんです。こちらはどちらも、この2つが非常に優れておりますのは、いずれも生活と密着したものというのを教材として取り上げているところで、その点では三省堂さんも東京書籍さんも非常に優れているんですが、三省堂さんのほうが非常にわかりやすいということと、あと自分が練習できるような工夫がされているということ、また、調査委員の先生方からは、大きさがちょうどよくて、机の上に置いたときに問題がない大きさになるというので三省堂さんのほうを推薦することになっております。

次に、社会です。これが3分野いずれも東京書籍さんになっております。これはいろいろと意見はあるんですが、実際現場の先生もどういふものがよいかというのはいろいろお考えがあるみたいです。東京書籍さんの教科書は非常に丁寧でわかりやすく、そしていわゆるチャート式の参考書のようなそういうつくりになっております。ほかの教科書会社さんもそういうところは増えているんですが、東京書籍さんは本当その辺がかなり緻密につくり込んであるというところがあります。ですので、東京書籍さんの教科書ですと、生徒が自分で問題を見つけて、その自分の関心に応じて学んでいくということが可能になっています。これは、要するに、授業で使う上でそれがいいか悪いかというのは考え方によると思うんですが、今回はそういった生徒の主体性を重視するという考え方に従って、そういう丁寧なものというのを選択したというような形になっております。その一番下に書いておられますように、そういう学習課題が作業体験で身近な学習課題が設定されていて、それを解決するための工夫というものが緻密になされておりますので、東京書籍さんになっております。これは、歴史的分野あるいは公民に関しましても同じようなつくりになっております。歴史的分野につきましても、そういう身近な事例から生徒の主体的、対話的な学習活動が行えるように、最初の導入部分からまとめの部分まで体系的につくられておりますし、公民につきましても、同様に最初の導入からまとめに至るまでシステムチックに教材が並べられております。そのように導くような工夫というのが東京書籍さんのほうがなされております。そのため、3分野いずれも東

京書籍さんになっております。

次に、社会科の地図です。地図につきましては、これは東京書籍さんではなくて帝国書院さんです。先生方も見ていただいたのではないかと思うんですけども、委員の先生方も同じような印象を持たれたのではないかと思います。東京書籍さんのほうも非常によくできているんですが、開いてみると帝国書院さんの地図はとてきれいです。非常にわかりやすくてあります。ちょっと判が大きく、地図自体の大きさが大分違います。ですので、帝国書院さんのほうが非常にわかりやすい地図、見やすい地図になっているということがわかるかと思ひます。実は、重さをはかると帝国書院さんのほうがちょっと軽くなっているというので、持ち歩くのにそんなに負担にもならないということでこの帝国書院さんのほうを第1推薦にするということになっております。

次に、数学です。数学も東京書籍さんのほうになっております。かつての本当に問題だけが並んでいるような教科書とは変わって、今は非常に丁寧に基礎から応用まで理解できるような、そういうものになっているんです。日本文教出版さんのものは、非常にそういう学ぶ過程というのが丁寧に詳細に示されております。そして、第1推薦の東京書籍さんは非常に緻密につくられ、あと今年からQRコードが掲載されるようになっており、その部分も非常に充実しているということ、また、小学校との連続性を保つために、ゼロ章という工夫がされています。そのゼロ章を見ることで、数のことでそんなに分厚いわけではないんですが、ただ導入として小学校との連続性というのがあるように工夫がされているというそういう形になっております。

次が理科です。理科は、第1推薦を東京書籍さん、第2推薦を啓林館さんとしております。これは中を見ていただいたら非常によくわかるんですが、啓林館さんのほうは非常に専門的で詳しく内容が書いてあります。ですので、かなり突っ込んだ内容について理解をしようと思うと啓林館さんのほうという選択になるかもしれないんですが、やはり生徒が主体的に自分で学ぶということを考えますと、適度な教材の配置というのが東京書籍さんのほうで、余り詳細にならずに、詳細になり過ぎずに適切にバランスをとって配置されている。最後に書いてありますように、教材や資料がジャンル、分類ともにバランスよく精選して取り入れられているというのが東京書籍さんです。ですので、この東京書籍さんを第1推薦としております。

次に、音楽です。音楽の一般ですけども、これは教育芸術社さんと教育出版さんを第1推薦、第2推薦としております。どちらも非常によくできていてわかりやすい教科書と思ひます。生徒が自分で学ぶという点でも、どちらもそれぞれ工夫されているんですが、教育芸術社さんは、特に、生徒が自分で学ぶというところ、そしてその楽曲それぞれについて非常に具体的に説明がされております。そういったこともありまして、第1推薦として教育芸術社さんとしております。

これは器楽のほうもほぼ同じです。これは教育出版さんのほうも非常に工夫がされていまして、一般のほうで鑑賞したもの、その鑑賞したかつての名曲の、例えば

ベートーヴェンの「運命」ですとか、そういったものの主題が演奏のテーマとして掲載されているなど、その連携等いろいろ考えられているんです。教育芸術社さんのほうが実際に演奏するというふうになったときに、かなり具体的に掲載をされており、しかも写真やイラストなどが多用されていて、非常にわかりやすく説明されている。そういうことで教育芸術社さんを第1推薦としております。

次に、美術です。美術は第1推薦が光村図書さん、第2推薦が日本文教出版さんです。図版が大きいとか原寸大で表示するということは、どの出版社さんもされているんですが、中でも光村図書さんと日本文教出版さんが非常にきれいな図版になっております。特に、光村図書のテキストというのは非常にきれいです。もし時間がありましたら、また後で見ていただけたらと思うんですけども、「富嶽百景」の浮世絵が掲載されているんですが、それが光村図書さんは波から落ちてくる泡まできれいにはっきりわかるような図版になっています。ほかのところでも同じ図版を使われているんですが、そこまできれいではないんですね。何が違うのかよくわからないんですけども、非常に絵がきれいなこと、あとこれは真ん中からちょっと下のところにトレーシングペーパーを用いるという、これは「最後の晚餐」の絵にトレーシングペーパーを重ねて、それで遠近法が自分で手で描いて理解できるようなそういう工夫があります。また、版画等が実際に和紙のような紙を使って、非常にざらざらの絵で、そういったものを体感しながら鑑賞する。そして、鑑賞してそれを表現する、自分で作成してみる。そこで終わらずに、またそれが再び鑑賞に戻るといような、そういう表現と鑑賞が一体的に学べるようなそういう工夫が光村図書さんではされています。そういったこともありまして、第1推薦を光村図書さんにしております。

そして、次が保健体育です。保健体育は大修館さんを第1推薦に、第2推薦を東京書籍さんにしております。どちらも非常に工夫がされていて、よい教科書だと思いますが、大修館さんのほうが非常に具体的でわかりやすく教材が並べられているのと、あと学習の成果を振り返る内容というのが大修館さんのほうが非常に充実をしています。また、コラム等が多用されていて、学習指導要領に定められている内容だけではなくて、もっとそこからいろんなほうに話が展開するような、そういう工夫というのがされているのが大修館さんです。そのようなこともありまして、第1推薦を大修館としております。

次に、技術家庭の技術です。技術分野は、東京書籍さんを第1推薦、第2推薦を開隆堂さんにしております。東京書籍さんのほうは、写真やイラストというのが非常に大きく、そしてわかりやすく配置されており、そして、それを見ながら自分で学ぶことができるような、本屋さんに行くとDIY、自分で日曜大工をするためのムック本なんていうのがたくさん置いてありますが、まさにそれと同じような感じになっていまして、自分でいろんなものをつくれるようなそういう工夫がされています。それだけではなくて、自分でつくるだけではなくて、いろんな人と話し合うというそういう工夫も東京書籍さんにはされています。そのことで東京書籍さ

んを第1推薦としております。

このことは家庭分野でも同様です。家庭分野が必ずしも同じ出版社である必要はないということですが、東京書籍さんはやはり非常にわかりやすく、いろいろな料理なども自分でつくることができますし、あと、これは蒸し料理というのが新たに作られているんですけども、なかなか最近は蒸し器が家庭にないというんですが、でも蒸し器がない場合でもどうやって料理をするかとか、丁寧にそういったことが示されているということもあって、東京書籍さんを第1推薦としております。

次に、英語です。英語は三省堂さんを第1推薦、第2推薦を東京書籍さんです。英語のテキストは、かなり考え方で分かれているのではないかというふうに思います。東京書籍さんは非常に丁寧に、これもまさに昔のチャート式の参考書のような形で、非常に詳細に書いてあります。その一方で、三省堂さんのほうは、そこまで詳細ではないんですけども、非常にわかりやすく教材が並んでいて、生徒が学ぶと同時に教員が非常に教えやすいものになっています。特に4技能、聞く、話す、読む、書くという技能がそれぞれずっと並べてあって、自然に英語を学ぶというそういう工夫が三省堂さんはされています。そういったこともありまして、英語は生徒が自分でそういう主体的に学ぶということ、そして英語を身近に使いながら学ぶことができるということで三省堂さんを第1推薦にしております。

最後に、特別の教科道徳です。これも第1推薦が東京書籍さん、第2推薦が日本文教出版さんです。この2つの教科書は非常にわかりやすく並べてある一方でこう読みなさいというような、何か余りしつこく書いていないんですね。まとめの部分も割とシンプルに重要な事柄が示してあるだけで、生徒が自分で考えるような、そういう工夫がなされています。そういった意味で、この2つのものが優れているんですが、東京書籍さんのほうは、どういうふうに読めということが余り書いてありません。でも、日本文教出版さんのほうは最初に主題が載っています。そのことがいいか悪いかというのは、ちょっと議論の余地があると思うんですけども、生徒が先入観なく読んで考えるという作業をするにはそういったものがないほうがよいというふうに判断しまして、東京書籍さんを第1推薦としております。

以上で説明を終わりたいと思います。

○ 津森教育長：ありがとうございました。

ポイントを説明していただきましたが、教育委員の皆様から山田委員長にご質問等がありましたらお願いします。

○ XXXXXXXXXX：丁寧にずっと書いてあるほうがいい科目と、そうじゃない科目が多分あるんだろうと思います。その辺の選定基準はどんなふうな立場でやられているんですか。

○ 山田委員長：それぞれの教科は、専門の先生方に選考していただいています。ですので、前回これはかなり割れたところでもあります。丁寧過ぎるということがあだになって東京書籍を選ばないということもあったように記憶していますが、今回は最

初に主体的な学びということで、あと問題発見、問題解決という、言語活動とか、そういう観点で見ますと結果的に東京書籍さんで共通したというのは、教員が、主体的にいろいろ教えるというよりは生徒が主体的に学ぶというほうが重視された結果かと思います。教科によって違うということは確かにあると思うんですが、割とそういう東京書籍さんの考え方をよしとする教科が今回は多かったということかと思えます。

- [ ] : 今回の教科書は、本当にいろいろすごいなと思いますね。特に、東京書籍のは、例えば、国語は私ちょっと書き過ぎかなというのがあったり、逆に数学はそれでいいと思いますが、科目によって多分違うと思うので、そのあたり議論されていると思うんですけども、そういうところも考慮したほうがいいのかなと思えました。
- 山田委員長：その点も含めて議論はしたんですけども、今回は、皆さん東京書籍のそういう丁寧さというのが高く評価されたということかと思えます。
- [ ] : たしか社会が、それぞれの種目になりましたよね。そのときに、選定委員は、まとめて東京書籍とか、まとめて帝国書院とかというようなやり方ではなかったですね。
- 山田委員長：はい。そのやり方ではありません。それぞれ別々に選択をした結果、このような形になっています。ただ、最初の選定委員の先生方というのがやはりある基準で選ばれていますので、そうすると、どの領域も同じような基準で選定されるので、そちらに偏るというような形になってしまったということはあると思いますが、3領域がそれぞれ全く別の出版社でも問題はないはずです。ただ、ちょっと東京書籍さんのつくり方っていうのは、その3領域でかなり共通していますので、その結果、どれも同じ東京書籍さんになったということかと思えます。
- [ ] : ありがとうございます。
- [ ] : 今年は国際理解、そういうのを理解するチャンスかなと、そういう目で見えていたんです。もう一つはコロナウイルス、そういう目で見えていたら、たまたま保健体育のほうで、大修館が、このコロナウイルスではないのですが、感染症対策として、非常に細かく丁寧に書いています。なかなかいいなと思ったりしたんで、そういったご意見はございましたか。
- 山田委員長：感染症については、しっかりと書いてあるものがないかという話はしたんです。ただ、恐らく教科書をつくった時点では、まだコロナが間に合っていないと思うんですね。ですから、それをどうするかということですけど、大修館さんは感染症だけではなくて、ほかのことも非常に詳しく書かれているということもあります。その一つとして、感染症についてもかなり詳しく書かれたというその結果がそのようになって出ているんじゃないかと思えます。コラムでというふうにこの報告書の中には書いていますが、かなり突っ込んだところまで大修館さんは書かれているところがあって、その点非常によくできた教科書だというふうに判断しています。まさに今読むべき教科書なのかもしれません。

- [ ] : 教科書で教えるわけですが、若い先生が増える中で、英語で教員にも使いやすい、教えやすいとかというのがあったのですが、若い先生への配慮というか、教員に対する教科書の使い方について、そういう話題はありましたか。
- 山田委員長：専門調査委員の先生の話だと、まさに自然に英語を学ぶ、言葉を学ぶように三省堂さんのテキストは並べてあると言われるんですね。それをそのまま受けとめるような形で学べるということで、教えるほうもそれで非常に教えやすいというそういうことでした。だから、年齢がどの程度関係するかというのはわかりませんが、まだ慣れていない先生であっても、比較的その流れに従って、自然な流れで教えることができるというふうに判断をしたということです。
- [ ] : かなり課題をはっきり書いてあります、この授業の課題が。
- 山田委員長：今英語も同じで、何を学ぶかというのはすごく明確になっています。昔の教科書は、先生に言われて、ああ、なるほどという感じだったんですけど、今はもう教科書の中にはっきりと書いてあって、しかも何を学ばなければいけないか、何を覚えなければいけないかが非常に明確になっています。その意味でも三省堂さんの教科書というのは、それが非常にわかりやすく書いてあるかと思います。ただ、社会のような細か過ぎないような形でそれがうまく示されているのが三省堂さんの教科書ではないかというふうに思います。
- [ ] : ありがとうございます。
- 津森教育長：他の委員はよろしいですか。  
委員の皆様からの質疑も尽きたと思いますので、これで質疑応答を終えたいと思います。ありがとうございます。  
それでは、山田委員長は、退出をお願いします。
- 山田委員長：どうもありがとうございました。失礼します。
- 津森教育長：それでは、これから種目ごとに審議をしていくんですけど、選定委員会がつけた第1推薦、第2推薦から選ぶというのを基本としたいと思いますが、図書について、とくに推薦したいものがあれば、その都度意見の中で取り上げていただくということによろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：それでは、国語から参ります。第1推薦東京書籍、第2推薦光村図書となっておりますけど、確認ですが、それ以外にここがよかったというのがありますか。
- 委員：なし。
- 津森教育長：それでは、このどちらかから選んでいきます。  
それでは、ご意見をよろしくをお願いします。
- [ ] : はい。国語からですね。国語に限らないんですけども、今回選定されている教科書が、新しい学習指導要領の基本とされている主体的というような言葉がかなりキーワードで出ています。国語についてもそういう教科がということで、あと前半の論議にも出ていましたけど、主体的に自分で学ぶことと、それからちよ

つとカテゴリーが違いますが、自分で学べる、わかりやすく自分でも学べる、そういう意味合いでもこの教科書を選びましたということは、本当に今の教科書でひょっとして学校に来ずに勉強しなければいけないという状態があるかもしれない中で、順当だろうというふうに評価をしました。

- 津森教育長：ほかの委員の皆さんはどうでしょうか。
- [ ]：先ほどちょっとお話ししたんですが、もう少し何か自分で考えられるようにしたほうがいいと私は個人的には思います。東京書籍は、私はちょっと書き過ぎではと個人的にそういう感じがしました。確かに自分でどんどん学んではいけないんですけどね。余り書き過ぎちゃうと国語はちょっと違うと、数学はそれでいいと思うけども、正解がある科目と正解がない科目があるので、余りこれが正解だというのは、私は違うのかなということで、私の個人的な意見ですが、そんなふうに思いました。
- [ ]：私は生徒の立場を想像して、教科書を今回見させていただきました。そのときに国語の教科書の空白の部分、行間というかそういうところで、すごくぼろっとしながらも何か情景を思い浮かべたりとかすることが多いのではないかなと思ったので、丁寧なのは大事ですけども、余り細かくなってくると、情景を浮かべる、自分で主体的に思い浮かべるといった想像力が少しそがれるような気はしております。
- [ ]：国語は内容が多岐にわたっていますよね。調べたことをどうディスカッションしていくか、司会はどうする、そしてそれをどう書くかなど、どうしてもいっぱいにはなることが多いというのは思いました。両方ともいい教科書だなというところです。  
あと、今回、先ほども東広島市は読書に対して力を入れるということでしたので、その視点から、国語で読書をどのように扱っているかというのはポイントかなと思ったところです。
- 津森教育長：読書についてはどっちが勝っていますか。
- [ ]：光村図書のほうは読むというところの教材で、テーマ、著者に関連した紹介がありました。東京書籍のほうも同じような感じで書いてありましたから、差異はないです。
- 津森教育長：差異はないんですか。
- [ ]：光村図書のほうが読み物、読書ですね。読み物ということに関してはよかったですかなと思いました。
- [ ]：光村図書がちょっと横断型で、これはなかなかおもしろいなと思います。東京書籍はちょっと印象的です。
- 津森教育長：国語の教科書は、すごい情報量で、資料編だけで100ページぐらいあるんですね。それで、先生はどうやって使うのかなと思って、どちらにしても膨大ですよ。選定委員会としては、振り返りとか照らし合わせて評価されるとか、主体的な学びを引き出すというのが、明確なのは東京書籍だということが出ています

が、トータルとして余り差はないと私は思います。ちょっと意見もいろいろとあるようでございますので、あとで再度議論をさせていただきます。一旦保留とさせていただきます。

- 津森教育長：次は書写に行きます。これは4社ありましたが、これ以外のほうがよかったというのがありますか。
- 委員：なし。
- 津森教育長：第1推薦の図書についてご意見がありますか。
- ████████：はい。これについても順当な判断だろうと思うんですが、ただ、第1推薦と第2推薦を比べて机に置きやすいということに加えて、第1推薦は、推薦理由に書いてあるように筆の運びが把握しやすいとか自分で練習しやすいとかという点もあると思いました。
- 津森教育長：ほかにはどうでしょうか。この三省堂ということでよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：次に社会へ行きたいと思います。社会ですけど、種目でいうと、地理・歴史・公民いずれも第1推薦が東京書籍ということになっており、第2推薦がいずれも帝国書院ということになっております。地図はこの逆の順位です。このあたりの意見をお伺いしたいと思います。
- ████████：地図に関しては、やはり帝国書院が伝統的な特色を感じます。見やすい、非常にいいです。
- 津森教育長：地図の意見が出たんで、地図を先に行います、どうですか。
- 委員：異議なし。
- 津森教育長：異議なしですね。他の委員のご意見はいかがですか。
- ████████：はい、私も同意見です。
- 津森教育長：わかりました。みなさん、うなずかれていますようですが、それでは、第1推薦の帝国書院ということでよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：では、地理からいきましょう。この2社以外も含めてご意見をお願いします。
- ████████：第1推薦の東京書籍は、考える力とか評価のところがきっちり書いてあると思います。
- ████████：私は、読んでみて、さすがに帝国書院は地図の伝統があるだけに、地理の本文が興味深く読めると思いました。一貫的にどの教科書も本文は、可もなく不可もなくという感じで面白くない中で、地理の帝国書院の文章は印象的でした。
- ████████：社会の学習では資料が重要ですよね。読み物としての副読本という位置づけではないですから。東京書籍の方がいいように思います。
- ████████：同じように感じています。社会科の学習にはすごく情報量が多い。そういう中で、東京書籍の整理の仕方、まとめ方というのは、構造化という説明もありましたが、優れていると感じました。

- 津森教育長：他の委員はいかがですか。他にないようでしたら、地理は第1推薦の東京書籍ということでよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：次に、歴史分野です。ご意見をお願いします。
- [ ]：資料の提示にポイントがあるのは地理同様で、資料の選択や活用をよく考えられていると思いました。
- [ ]：先ほども言いましたが、東京書籍は内容的にレベルが高い学習が期待できるのかなと思います。
- [ ]：中学校の歴史では、小学校と違うのは日本史と世界を合わせて学ぶことですが、その点、第1推薦も第2推薦も非常によく工夫されています。日本史の中で外国との接点として印象的な例は、鉄砲やキリスト教の伝来、幕末の黒船来航などですが、日本史の内容とうまくマッチングさせてあると思います。とくに第2推薦の構成は面白いと思いました。
- [ ]：そういう意味では歴史もすごく知識量が多く範囲も広いですね。第1推薦の図書は、やはりうまくまとめられていると思います。
- 津森教育長：他のご意見はございませんか。とくにないですね。それでは、歴史も東京書籍ということでよろしいでしょうか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：最後に公民です。ご意見をお願いします。
- [ ]：公民の学習でも資料が多いのですが、東京書籍のものは資料から課題を発見して実践へという流れがあり、作業的で体験的な学習にも配慮されている感じます。
- [ ]：東京書籍は内容的に、3分野ともレベルが高いという印象がありました。
- [ ]：現代社会についての学習になりますが、課題にどう向き合うかというときにどんな知識が必要か、そのことをどう理解して他者に説明するかというようなステップが東京書籍はよく考えられていると思いました。
- 津森教育長：地理・歴史同様、第1推薦の東京書籍のご意見が多いようですが、そのほかの意見はございませんか。
- [ ]：異議はありません。
- 津森教育長：それでは、公民分野も東京書籍ということでよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：では、数学です。数学については、第1推薦が東京書籍、第2推薦が日本文教出版で、ここは7社あるので、これ以外がよかったというのがありますか。
- [ ]：東京書籍と啓林館が非常に似たつくりで、教育出版と日本文教出版のフレームは同じようなつくりになっている、そんな気がしました。  
数学は、どう考えるかというところで、東京書籍は本当に考えさせられるので、現代的で、すごいつくりだなというように思いました。今回は啓林館の教科書はほ

かの教科も含めて私は結構使いたいかないという感じをちょっと受けたりしました。それはいいんですが、第1推薦と第2推薦と2つ上がっているのので、先生方がどちらのほうが教えやすいのか、生徒がどちらのほうがわかりやすいのか。それで、東京書籍自体は私の感覚では、ちょっと量が少な目なのかなと、ほかの科目に比べてちょっと、東京書籍にしては少な目なのかなと思ったので、それはどちらがいいのか。教え方の問題もあるのかなと思います。東京書籍も日本文教出版も解法を提示してあるので、自ら学べる場所もありますし、非常にわかりやすく書いてあるので、私は個人的にはどちらでもいいかなと思います。ただし、1点ちょっと違っただけは、日本文教出版は索引に英語が書いてある。索引のところに意外と専門用語で英語で聞かれたときわからないんですよ。それが書いてあります。教育出版と日本文教出版は英語が書いてあったので、これはちょっと教えたい、面白いかなと思いました。

- [ ] : 正直日本文教出版の教科書を今回推薦されたということで見せてもらって、ああ、なるほどという感じはしました。そして、東京書籍のデジタル教材ですよ。これから、それこそ [ ] 委員の選考理由かもしれないけど、データとかあいうものの分析がどんどん入ってくる中で、そこを活用できる教科書ということ。それから、ここに評価書に書いてあるんですけど、小学校との連続性。やはり小学校の算数と中学校の数学というのが、中1ギャップというのものもあるだろうと思うんですよ。そこのところの接続というメリットを評価すれば、これも順当かなというふうには見ました。
- 津森教育長：他にご意見はないですか。
- [ ] : 今ふと、わが子が初めてのテストで悪い点数をとったのを思い出しました。それで、小学校から中学校に上がるときに、いまだに算数というんですよ。算数から数学というふうになるというその認識が、ちょっとコロナの件もあったと思うんですけども、やはりそこがすごく小学生から中学生になるときにハードルが高いことだなと、思った以上に高いなと思いました。東京書籍のゼロ章で本当に、小学校のときにわかっている子もいない子もそこを徹底的にしてからの数学導入という形で、指導をいただく者としては、子供のためには本当にそれが一番大事ということを感じて、特に数学です。国語などは文章が難しくなったり漢字が難しくなったりという感覚的にはそういうものがあるんですけども、算数から数学への移行というのをスムーズに、先生方も頑張ってもらいたいと思うんですけども、それがしやすい教科書も特に1年生は重要かなと思いました。本当に悪い点数をとってきて、これからこの教科書とどうつき合っていくかというのを親としても考えさせられましたし、ここに書いてあるように同じ誤りを繰り返さないための工夫、ここがすごく重要だなと思った実体験でした。
- 津森教育長：同じ誤りを繰り返さない配慮というのは第1推薦の図書にありますね。
- [ ] : はい。
- 津森教育長：他の委員は、いかがですか。

- [ ] : はい。この日本文教出版は全体的にバランスがとれていて、そして表現とか事例が非常に適切でわかりやすいという印象を受けました。東京書籍のほうはグラフだとか図形とかそういったものの理解というのをさせるのに非常に丁寧にしているのと、それから、それを体験的に理解させるということで、ピサの斜塔の図で今どこに立って見ているのかなと、そういった少しゲーム性も入れたりして、そういう工夫があるなということ。順位としては東京書籍が1番というのでいいのではないかと私は思いました。
- [ ] : ゼロ章という配慮は東京書籍だと思うのですが、日本文教出版は補充問題とか総合問題とか活用問題とかを取り上げて、8ページ、12ページと繰り返しの問題数はかなりありました。ですので、時間の中でやり切るとか、適応問題をやって振り返るということについては、日本文教出版はいいなと思いました。ただ、ワークとかプリントとかもありますので、教科書としては東京書籍のほうがいいのかなと思います。
- 津森教育長 : 指導主事に私も聞いてみたんですけど、東京書籍がいいと言う人もいる、日本文教出版がいいと言う人もいる、日本文教出版のほうが基礎、基本をしつかりやるタイプで、東京書籍のほうは少し質の高い学習をするような感じだったというような意見がありました。あと、デジタル教材が東京書籍のほうが、ちょっと使いやすかったという声を聞いております。

それでは、意見は出尽くしたように思いますが、この数学につきまして東京書籍ということよろしいですか。
- 委員 : よろしい。
- 津森教育長 : 次に理科です。この2社以外のものも含めいかがでしょうか。
- [ ] : 理科もどこの本も私はすごくおもしろいのがあったので、見させていただきました。多分前回より子供たちも興味を持って見るんじゃないかなというふうに個人的には思いました。意外とつくりがおもしろかったのは学校図書です。これはちょっと新しい、多分つくりかなと思います。ただし、少し問題の量がちょっと少なかったので、多分これで外れた可能性があるのかなというように思いました。

やはり東京書籍と啓林館が私もいいのかなというように思いました。東京書籍、さっきから私は言っていますが、非常にわかりやすく丁寧で、もうこれを読んだら大抵のことはわかるよという具合になっているので、それはそれでいいと思いますが、やはりある面では、先ほども言いましたが、理科もやっぱり自分で見て考えさせる、間違ってもいいから考えさせるほうが私は個人的にはいいのかなと思っています。これは非常に難しいので、教える先生方が非常にやりにくかったらと思うし、内容も非常にすごく多いので、これが全部できるのか、実験もやらないといけないしと思うと、できるのかなという具合に思ったところです。そういう面では、自分で主体的に学んでいただかないといけないということになると東京書籍かなというふうに思いました。私は個人的にはそういう、ある面は啓林館のほうのという意見です。私はどちらでも問題はないかなとは思っています。

- 津森教育長：啓林館のほうがどちらかというといいということですか。
- ████████：教える立場からいうとやはり東京書籍がよいかもしれません。  
 しかし、考える力だとか、あとまとめとか、いろんな展開のところまで書いてあったので、啓林館のほうは非常にいいなと私は個人的には思いました。ただ、今の中学生の子たちがどんなふうに捉えるか。私は専門的な目で見えてしまうので、それがいいかどうかはちょっとよくわかりません。それも多分そういう中で中学生レベルに立つと東京書籍がいいということになると判断をされたんだと思います。
- 津森教育長：ほかには、いかがですか。
- ████████：これは正直迷うところです。理科が好きな子は多分第2推薦のほうでどんどん勉強ができるかなと思いつつ、そうでもない子は第1推薦が使いやすいから思っていて、迷っています。最後はどっちと言われたら、使おうとしている先生が選んだ原案に手を挙げるかなというところです。
- ████████：私も同じ意見です。
- ████████：私も同感です。理科の好きな子は本当に見ているだけでどんどんいろんな探究の世界が広がりそうな感じですよ。教科書は、主たる教材として扱うわけで、やはり丁寧に進め方とか発表の仕方とかというような仕方、やり方が書いてある第1推薦のほうかだと思います。
- ████████：僕はこの順番でいいかなと思っているんですが、啓林館のほうも非常に内容、それから上手にまとめていると思いますが、図表の活用にもう少し工夫があればなという感じがいたしました。東京書籍のほうは、非常に図表の活用が上手でわかりやすいです。特に力学のところの解析が非常によかったと思います。それともう一つ、体験的な、実際のいろんな事例を関連づけて表現しているんで、学ぶほうとしてはそういった活用を評価していいのかなと思いました。
- ████████：こちらの下のほうに書いてあるんですけども、こんなことも理科かというのを子供が感じられる教科書を選びたいと思いました。やはり日常生活の中で、これは数学なんだ、これも理科なんだと子供たちが気づくことがとても学びで大事だと思って、特に理科はそういうものがすごく多いのではないかなということ、下のほうにも書いてありますが、先生が教えるときに教えやすい、子供たちも理解しやすいということで、そういった面では第1推薦のほうがいいのではないかなと思っています。██████委員も言われたんですけど、理科が好きな子は本当に専門的なことをどんどん知れたらというのはあるんですけども、日常生活の理科の気づきというのも、中学生になってもより理解を深めていっていただきたいなと思います。
- 津森教育長：かなり接近をしているのだけれど、理科が好きな子は啓林館のほうが好きかもしれない。そうでもない子は東京書籍のほうでわかりやすいだろうということは、今こんなことも理科なんだと、██████委員は東京書籍のほうにそういうことはあったという理解ですか。
- ████████：そうですね。生徒が理解しやすいという点では。

- 津森教育長：それでは内容の分量については、いかがですか。
- ████████：はい。量的にはやはりこれはすごく多いので、多分セレクトしながらや  
っていかないと、これだけ多いと。
- 津森教育長：どっちも多いわけですね、両方。
- ████████：どっちも多いです。だから、先生方は大変だなと思って見させていただ  
きました。東京書籍のほうの自学自習はある程度できる、レベルによって、だから  
先ほどおっしゃったように、好きな子は多分啓林館のほうが自分で勉強をやって、  
まとめとか力試しとかがいっぱいあるので、伸びる子はどんどん伸びる。だから、  
そこを東広島市としてどういうふうを考えを示すかというところですね。
- 津森教育長：なるほどね。指導とか、めざせ！ノーベル賞という事業を市では進めて  
いますが。
- ████████：めざせ！ノーベル賞だと私は啓林館のほうです。
- 津森教育長：それが伸びるんですね。
- ████████：理科嫌いに、理科が苦手と思わせるのは悲しいですよ。
- 津森教育長：すいません。これも保留とさせていただきます。改めて、後で再度議論させ  
てください。  
次に音楽です。2社ございまして第1推薦が教育芸術社、第2推薦が教育出版で  
すが、いかがですか。
- ████████：学習指導要領で歌唱技能の習得、育成というのは大きく言われていると  
ころで、姿勢とか技能の指導のために、イメージ図があって、大きく姿勢が示され  
ているということで教育芸術社のほうが視覚的に見てわかりやすいなと思いまし  
た。
- 津森教育長：音楽は2社しかないです。
- ████████：今こういうコロナの状況下で、音楽という教科、科目の領域をどう維持  
していくかということがすごく悩ましくて、この評価書を見ると、いろんなICT  
の活用というようなことだったり、ひょっとすると本当に対面じゃなくても音楽が  
成り立つというのがもうそろそろ準備できているのかなというような読み方をさせ  
てもらいました。
- ████████：教科書のイメージという点では、第1推薦のほうが、生徒が歌いやす  
い、歌唱とかを修得しやすいような構図になっているんだと思いました。歌詞が縦  
書きですごくそのイメージが湧きやすいのが、第1推薦のほうがとても湧きやす  
いと思いました。それは、譜面を見て平仮名で書いてあるだけですと、歌詞の意味、  
使いにくい古語とかで、「花」でしたっけ、滝廉太郎。春のうららの隅田川で、か  
いの滴、かいの滴って言葉で、かいというものをまず、すいません、自分の経  
験ですけれども、川に貝がいるのかなと思いました。ということは、やっぱり歌い  
ながら何が歌詞に盛り込まれているかというのも、縦書きの漢字つきの表記が望ま  
しいのかなと。そうすれば言葉の意味の込め方が子供たちも歌うときに変わって  
くる、これがとても重要なのかなと。想像力とイメージを沸き立たせるような歌唱方

法に特化したのが第1推薦の図書だと思いました。

- [ ] : 余りよくわからないこともあったんですが、本市が和の文化、和楽器など重要にしているの、そういうことで注目して見ました。どっちも同じようなことで、これは余り差がないなと。ただ、一方で、本市は伝統的に合唱指導に力を入れているということで、私は知らなかったんですが、合唱指導を充実させるのにこの教育芸術社のほうがいいんだろうとなっておりますので、そういうところで理解をさせていただいたということです。
- 津森教育長：ありがとうございます。今ご意見いただいていることは、教育芸術社ということのようでございますので、音楽一般についてはこのとおりでよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：続いて器楽についてはいかがですか。
- [ ] : 器楽に関しても第1推薦の図書がよく書かれているなという感想をもちました。
- 津森教育長：イラストはどうですか。
- [ ] : 打楽器だ、琴だ、尺八だというのは結構大きくて、きれいに提示されていました。
- 津森教育長：それでは、資料やイラスト等で視覚的な効果に配慮されていること、第1推薦の図書のほうが打楽器を重視しているというのがポイントだと思いました。これについても、第1推薦の教育芸術社ということよろしいですかね。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：それでは、美術です。3社ございます。いかがですか。
- [ ] : 教科書の中で取り上げている題材や作品に関しては、第2推薦のほうが本当に単純にすごいなと思うものも多く、取り上げている作品もよかったかなと思いました。海外の作品などは実際目にする機会がないけれども、第2推薦の取り上げている題材のほうが若干美術館とかで目にできる機会が多いものがあるかなというのを感じました。ただ、第1推薦は、美術の教科書の目的が違うなと感じたのは、トレーシングペーパーでなぞってみて実体験をしてみるとかそういったことで、作品をただ紹介するだけではなく、自分で作家の体験を追従するというか、そういったことができる工夫というのがやはり先生方もいいと感じられた点ではないかなと思いました。これは本当に作品の好き嫌いもあるかもしれませんが、ゴッホの「星月夜」の大きさというものが、実際の大きさは子供たちにはわかりませんが、ここに実物大のタッチがあったときに、この大きさを描いているとかということを感じられて、それをまたこんな単純なタッチで全体を見たときにすごい作品に感じるんだということを感じてわかればという意図があったんじゃないかなというのを感じました。
- 津森教育長：ほかに何かありますか。
- [ ] : 授業時数の少ない美術の時間ですね。その中でトレーシングペーパー

などの工夫があることによって、成功体験というか、できるという体感がある。限られた時間の中で教えるとしたら、そういう工夫があるほうが先生も取り組みやすいかなと思いました。

- [ ] : 先ほど委員長が第1推薦の図書のほうがきれいだとかかなり強調していたので、なるほどという理解です。
- [ ] : この2つとも両方よくできていると思ったんですが、先ほどの意見もありましたが、トレーシングペーパーとか、あれを1枚入れただけで大分工夫といたしますか、そういったものをしているなという感じがいたしました。それから、光村図書のほうは分量的にもちょうどいいんじゃないかなという感じがいたしまして、この順番でいいのかなと、そういうふうに思っております。
- [ ] : 両方ともよくできていると思います。主体的な学びというのも両方ともちゃんと入っていると。ある面では美術は、客観的な情報を得ることになるときれいなほうがより状況がよくわかるということだし、両方とも自分で主体的にいろんな絵を描いたりだとかそういうこともきっちり工夫がされていたので、どちらを選ぶのかなというのは非常に難しいんですけど、私はこのままでいいのかなと思います。
- 津森教育長：日本文教出版のほうも非常に充実した作品が目を引くということはあるものの、全体的にやはり第1推薦のほうがいいのではないかとということでしたので、よろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：では、次保健体育です。4社ございます。それも含めていかがですか。先ほどの質疑の中でも大修館がよかったというご意見がでましたが。
- [ ] : 東京書籍も非常に充実していて、全体を網羅していていいのですが、今のこのコロナ禍になると、それを意図して書いたわけじゃないと思いますけども、非常に丁寧にイラストを多用しておられるというふうに思ひまして、第1推薦の図書のほうがいいんじゃないかと思いました。
- [ ] : どれも、どの種目もこの2社は甲乙つけがたい中で、私はこれを見ていて、明らかに大修館のほうを読みやすく興味を引いて、レイアウトもすごく読みやすくいいなと思いました。特に薬物に関するところも領域がわかりやすく説得力があり、いろんな錠剤も実物の写真があったりして、結構そういうのは大変大事かなと思って見ました。
- 津森教育長：そのほかにご意見はありませんか。
- 委員：なし。
- 津森教育長：このとおりに第1推薦のものとさせていただきますが、よろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：では、技術家庭に行きます。3社ございます。いかがですか。
- [ ] : 技術は、私はこの順番かなと個人的には思いました。東京書籍のほう

が、両方ともわかりやすく書けて、観察力だとか分析力だとかということ結構強調されていて、自分で考えて物事に取り組むというのがあったので、東京書籍のほうがいいかなという意見です。ただし、開隆堂のほうは、かなり情報関係のところがかっちり書いてあったので、それはそれで重要なことだなと思いましたけれど、東京書籍のほう客観的に見たときには教科書としては使いやすいのかなというように思いました。

- [ ] : 第1推薦のほうは教科書としては使いやすいかなという気はしました。
- [ ] : 私もこれでいいと思います。内容が多岐にわたりますよね。防災もあるし、情報モラルのことやスマホのこと、やはり分量的に授業時数も少ない中でいくと、東京書籍のほうがお腹いっぱいにならない程度に押しなべてあるかなと思いました。
- 津森教育長 : この東京書籍のほうでよろしいのではないかということでしたので、技術はそのようにさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。
- 委員 : よろしい。
- 津森教育長 : 家庭分野のほうですが、いかがですか。
- [ ] : 技術と同じく、限られた時間の中で学習をしなければいけないという点で、第1推薦はよくまとめられていますし、具体的な写真やイラストなどもわかりやすいものを使われているなという印象を受けました。
- [ ] : 最後のところに防災の手帳というのが詳しく載って、それを切ると手帳みたいになるんです。防災は社会科にも、それから保体にも関係あるんですけど、時宜を得たものかなというふうに思って、東京書籍でいいんじゃないかと思います。
- [ ] : 両方ともよくできていると思いますが、第2推薦のほうが、文字が大きくて大変わかりやすいという印象を持ちました。  
それから、悪質商法とかそういった生活に関わるところが書いてあって、なかなかいいと思いますが、順位としてはこの順番でいいのではと思います。
- [ ] : 教科書とすれば、第1推薦のほう使いやすいかなと思いました。
- 津森教育長 : このとおりで順当ではないかというご意見でしたが、他にはご異議ないですか。
- 委員 : なし。
- 津森教育長 : では、技術分野と同じく家庭分野も東京書籍のほうを第1推薦とさせていただくということよろしいですか。
- 委員 : よろしい。
- 津森教育長 : 次に英語です。これは第1推薦が三省堂、第2推薦が東京書籍ということでしたが、他のものも含めると6社あります。いかがですか。
- [ ] : 一番最初にあったと思うんですけど、丁寧過ぎるということで、東京書籍は本当に丁寧ですけど、見ただけでどこをつかめばいいのという感じでしたかね。そういう意味では三省堂はすっきりしていて、登場人物も常に一貫性がありま

す。それから、小学校との連携、今小学校も教科になっていますので、連携の観点からも三省堂のほうステップを踏んだ教科書になっているなと思いました。

○ 津森教育長：他の委員は、いかがですか。

○ [ ]：私も、このどちらかかなというように思います。三省堂のほうは、きちんと学ぶ体系化もできていますし、自分で考えさせて、日常の生活のほうもきちんと取り入れられているのは非常によかったかなと。もう一つは、東京書籍より三省堂のほう文法的なところをきちんと書いてあったような気がするんです。やはり最後しゃべったりいろんなことをするとき、文法というのは大事なので、そこをきちんと書いてあったのかなと思います。

ちょっと蛇足ですけども、三省堂のほうは単語帳の縁にこれを書いてありまして、絵がこう描いてありまして、これ海外に行くといろんな日常のものは結構わからないんですよ。東京書籍も書いてあるんですけど、それは単語だけが書いてあったので、絵が描いてあると非常にわかりやすいので。海外の語学学校に入ると、必ずそれはディクショナリーで買わされたりする。あと、東京書籍は、これはワードルームとか結構ありましたし、ブレイクルームも。私は非常にわかりやすく書いていいかなと思います。ただし、東京書籍のは少しレベルが低いかなというように個人的には思いました。ですから、どちらをとるのかというのは非常に難しいところですけども、量からいったら三省堂のほう取組しやすいのかなとは思いますが。本当はレベル的にはもっと高いところもやったほうがいいと思うんですけど、ついてこれなければ、今のところは困るようになりますので、そういう意味では三省堂かなと思いました。

○ [ ]：まず、本のサイズということですね。東京書籍がちょっと大き過ぎるといいですか、使い勝手が余りよくないんじゃないかなという感じがいたしました。三省堂のほうコンパクトで、このサイズで辞書なんかを引くにはこのほうがいいかなと思いました。それから、文法のまとめがきちんと整理されているのと、それから、今 [ ] 委員がおっしゃられたように、イラストで辞書みたいに、そういうのがはやってきますので、そういう点で、優位だろうと考えます。

○ 津森教育長：三省堂がいいという意見が多いんですが、他の委員は、どうですか。

○ [ ]：基本原案賛成ですけど、その理由というのは、やはりこの中学校の英語の今の課題というのは、小学校英語との接続であると思うんですよ。小学校でやってきたことを中学校でどういうふうにブラッシュアップしていくのか。今の小学校はただの楽しい会話英語ではないということがわかるので、やっぱり英語を話すこと、聞くことというのが中心になっていき、そうやって中学校になると文法が入ってくると。そのあたりでどっちも、第1推薦も第2推薦もその小学校との接続というのにすごく配慮しているようだけれども、中学校のレベルへの接続を考えるという点で三省堂のほうというそういう判断です。

○ [ ]：まさに実体験ですけども、子供が4月から中学1年生になりました。中学校に入ると、テストで点をとらなければならない教科という認識が変わりま

す。小学校では、会話などALTの先生方と楽しく学んでいます。そこから一気にテストの教科というプレッシャーがかかります。三省堂の方がすっきりと見やすく、実際はワークや自分で購入した英語ノートへの聞きとりが付随するようになります。教科書が基本すっきりしたもので、ワークで広げていく。bとdの小文字の違いなど、単純なことをしっかり押さえていくこと。苦手意識を持たないためにも、本当に基本のことをしっかりやるという姿勢が英語は大事なのかなということ、第1推薦のほうが生徒も拒否感を覚えない教科書であるかなと思いました。

- 津森教育長：皆さん、このとおり第1推薦の三省堂というご意見だったので、そのとおりでよろしいでしょうか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：それでは道德でございます。全部で7社あり、それも含めていかがですか。
- [ ]：結論的には第1図書が順当だろうと思います。これからの道德の考え議論する道德というところに基づいて内容が構成されているということ。日本文教出版もいいんですけども、これも小学校の道德にも議論がありましたけど、教科書としてどう見るかという観点からいって第1推薦かなと思いました。  
ただ、結論部で、しかしながら第1図書は第2図書と異なり教材冒頭に主題名がなく、生徒の自由な発想を促す理由であると書いてある。むしろ生徒の自由な発想を促し、授業を通して主題に導いていくという点で第1推薦の図書が優れているというような表現のほうがいいのかなと思いました。
- 津森教育長：ありがとうございました。確かに今のところは小学校のときも議論になったことですね。
- [ ]：道德は考え議論する道德が求められています。話し合いの手引きとか、言語活動とつないで、例えばグループでするときにはこういうふうにといい、考え議論する手法も扱っており、内容面だけではなく学び方というところを見ると、東京書籍のほうが丁寧かなというふうに思いました。
- [ ]：この第1推薦の図書のほうにありますように、生徒がその題材に対して自由に自分はどう考えると、そういう意見がどんどん出し合えるということが道德の授業の目的だと言われておりまして、私もこれが大事だと思っております。そういう点では、こうだよと最初からこの内容をこういうふうな理解をするんだよではない、割と自由な投げかけをしているので、第1推薦の図書のほうがいいかなと感じております。
- [ ]：多分副題がなかったのは東京書籍だけです。
- 津森教育長：そうですね。
- [ ]：だから、そういう面では自分で考えさせるということをかなり表に出されたのかなと思います。中身もそんなふうな形になっているので、私はこのままでいいかなと思います。
- [ ]：この道德に関しては、教える先生の立場になって考えました。やはり思

春期の子供たちに道徳をという、教科書を広げさせてという作業を考えたときに、子供たちは、ああ、もうわかっているよとか、どうしても小学校のときのように素直に受け入れることができず、自分もいろいろ考えているんだよと、やはり押しつけられるというか、これがこうだと言われるのを一番、自分でもわからないけれどもなぜか嫌だという時期だと思うんです。そういった意味では、まずは第一に先生方が扱いやすい教科書で、なおかつ子供たちに正しいことを言えという強要するような導き方ではちょっと先生も難しいのかなということで思いました。なので、副題がないという点については、子供たちも、そうやって子供たちはぱっと目ざとく見たりとか、よくそういうことに気づいてしまうというか、先生、これをさせるんでしようという見方をするのではないかなというので、そういう意味ではここにも書いてあります多様な価値観を引き出すという工夫の優れているというので第1推薦の図書がいいかと思いました。

- 津森教育長：全員第1推薦の図書のほうが優れているのではないかという結論でございましたので、この道徳については第1推薦の図書とさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：一通り全部やったんですけれども、あと、国語と理科がございます。この国語と理科について、もう少し深めたいと思うんですが。まずは国語から行きます。
- [ ]：私は東京書籍のほうで賛同したんですけど、やはり東京書籍は、いろんな情報網、領域分析も持っていて、例えば今回の国語でいうと、これはいい悪いの両論ありますけど、論理国語とか文学国語とか、ああいう読み書き、話すいうカテゴリー一分けよりも、今の高校国語に通じるような感じで一応内容を立てているというようなこのあたりは、やはり教科書づくりとしてはちゃんと押さえるべきところは押さえているかなというふうには思いました。
- [ ]：先ほど言ったように、東京書籍は、余りにも意図をゆっくりゆっくり引きずったような感じがして、もうちょっと考えさせるのは光村図書。国語はやはりみんな違うわけじゃないですか、同じ文章を読んでも発想の仕方はみんな違うし、そういう面では私は光村図書のほうがと、個人的には思います。ただし、教科書として教えるときに教え方がという、決めづらいです。個人的に好きなのは、光村図書のほうがいいかと思うんですけど、どっちもどっちだと思いますけどね。
- [ ]：厚さからいうと光村図書が好きですね。じゃあ、何で東京書籍が厚いのかというと、横断的とか他教科との関連や全教科にかかわる言語活動の事例とかもあるので、文学作品や作文単元以外のものもたくさん扱っており、ボリューム的にもこうなるのかと思います。
- [ ]：第1推薦のほうが印象としては無難だなと思いました。それで、光村図書のほうが少し個性的というか、多分響いているのは、ふいに国語というのは、ちょっと思春期の子供の話になりますけれども、また国語、国語って何っていうとこ

ろに思う子は本当に思う教科ではないかなと思います。数学や理科や社会、英語は学ぶとなるんですけども、小学校のときとの違いがわかりづらいといったらあれですけど、算数と数学の違いはよくわかるけれども、国語は何となく小学校のときと何が違うのという感覚が子供たちにあるとは思いますが。ただし、とても必要な、大事な教科であるというのを子供が気づきにくいというところから、読み物は少し、子供たちが興味を持つか持たないかは別として、取り上げる題材の内容が少し個性的なほうがいいのかと感じました。無難であるという印象を受けたということは、何となくまた国語ねと、その小学校のときと何の変わりがあるのというふうに考えてしまうところが、本当は国語というのは、すごく教えるほうの先生方も学ぶほうもいろいろと広がる教科だとは思いますが、やはりそういう点では、光村図書のほうが私は個人的に少しおもしろいかなと思います。国語でおもしろいといったらいけないですけども、そう思いました。無難というのが一番嫌うところ、子供が嫌うところかなと。ほかの教科は教える観点とかいろいろ手引きとかがあってというのはあったんですけども。

- 津森教育長：他の委員は、いかがですか。
- ████████：難しいところです。私の印象では、先ほども言いましたけども、国語の教材ですけども、教科横断型の、クマゼミが出てきたり標本だとか、図形とかも出たり、ただ文章というよりも。トピックスの心理学の図形が大変印象的で、ああいうものを国語で勉強できるのはおもしろいなという感じでございます。推すとすればそういったところかなと思います。
- 津森教育長：東京書籍のほうということですか。
- ████████：はい。
- 津森教育長：それでは、今東京書籍のほうを推される方が3名、どちらかといえばちょっと光村図書のほうをおもしろいねという意見も2名ということですか。
- ████████：そうですね。例えば冒頭のあたりですかね。丁寧な教科書、教えやすい、学びやすい教科書では決してなくて答えがはっきりとしてなくても考える教科書があると。私の印象ですけど、光村図書は、どっちかという文学系に強くて、答えがなくて話し合いをさせてそれぞれ鑑賞するみたいなイメージが強いんですよ。ただ、それは教科書の使いようであって、やはり教科書というのは、学習指導要領の国語に書いてあるようなことというのは答えがあるとかないとかでなく、しっかり国語の読み書きをして、教えるべきことというのがあるはずで、それについては一応どちらの教科書もちゃんと押さえているんですけども、その基礎というものをしっかり子供たちに定着させるというその路線からいうと、私は東京書籍かなというふうに考えています。もちろん先生が光村図書を使ってできないわけではないと思うんですけども、先生がまずそっちの方向で押さえやすい教科書という評価です。
- 津森教育長：ありがとうございました。他の委員は、先ほど████委員がこれは特徴で今示してくださったんですけど、そういうふうなことは思われますか。

- [ ] : 光村図書は、文学作品を主に売りにしている、東京書籍は、どちらかという話、聞くという言語のほうに主を置いていると感じます。それで今求められている学び方とか、主体的な学びや、課題解決、発見という力を子供に育てるためには東京書籍かなと思います。
- 津森教育長：読書单元、読書の話がさっき出まして、両方とも読書单元があるんですか。
- [ ] : はい。
- [ ] : 教科書選定の中で、その専門性とそれからその横の連携、教科横断型というのも一つの視点だと思います。そういう点では東京書籍のほうに沿っているんじゃないかなと思っております。
- 津森教育長：教科横断型の観点でいくと第1推薦の図書ということですか。
- [ ] : はい。
- [ ] : 私は最初から言っているように、国語と理科は、やはりある面よく考えさせて、ある面では教員の思想みたいなものが入ったほうがいいのがあります。私は個人的にはそう思うので、光村図書のほうがいいかなという感じはしました。教えやすいのは東京書籍だと思いますが。
- [ ] : [ ] 委員も言われたとおりに、国語、先生が主観、思いを語りやすい、文学とか文章ですね。すごく押しの強い国語の先生というのが、これをすごく言うてくるなという先生がやはり生徒の心に残るといえるのか、特に国語でそういう強烈なキャラクターの先生がおられるというのは、その先生の思いを語る、国語プラス先生が語る授業というのがすごくおもしろかったかなと思います。それを考えたときに、どちらもとは思いますが、読み物としては光村図書のほうが。難しいです。
- 津森教育長：非常に難しいですね。国語の教科書に何を求めるのかということで、確かに昔から光村図書には文学作品の優れたもの、例えば「走れメロス」にしても「形」とか、菊池寛の、両方載っているんですよ。ここの東京書籍のほうのそうした、そういう文学的などころの差が縮まってきているなという私は印象を受けました。本当に個々の扱い方次第ではあります。そういう意味で言うと、ここは第1推薦、第2推薦、本当に拮抗したところがございますけれども、最終的には現場の教員の声というのを踏まえているという意味で、選定委員会の意見を尊重するということがかかでしょうか。
- 委員 : よろしい。
- 津森教育長：そのようにまとめさせていただければと思います。
- 津森教育長：最後に、まだ結論が出てないのが理科でございます。さきほどの印象が、理科が好きでもない子向きなのは東京書籍だろうと、理科が好きなのは啓林館だろうということ。かなり明確な特徴が出ていて、その大きさも違うんですよ、縦長と横長。これについては先ほどもちょっと見られていたようでしたけど、特に自学自習ができるっていうのは東京書籍のほうでしたかね。

- [ ] : 啓林館もそのとおりちゃんと実験だとか結果だとか考察だとかをわかりやすく書いてあるし、できるだけ考えられるようにもなっているし、まとめだとかあと力試しだとかきっちりあるので、今までの教科書とはちょっと違っているのかなと思いますけど、ちゃんと自学自習はできるようになっていたような気がしました。東京書籍は、ほかのところもそうですけど、非常にわかりやすく書いてあるので、これがあればみんなわかるよねというような感じがして、私はちょっと丁寧過ぎるというのは、ある程度自分で考えさせたほうがいいかなと思う考え方があるので、そういう者からすると啓林館のほうがいいのかないかなという私の個人的な意見です。
- [ ] : 東広島が数理教育に力を入れるし、スマートシティという話もあるので、東広島の子供たちに新しいサイエンスの教科書というのもありだとは思いますが。
- 津森教育長 : 理数教育の重視ということで、今、これは市長方針でもあるんですけど、めざせ！ノーベル賞というのもやっているということとの整合性というか、その考え方でいくと啓林館をとるのもありだと思いますね。
- [ ] : 今3年生の元素周期表を見ているんですけども、決定的な違いが、東京書籍は記号だけです。啓林館は写真がついています、このように実際そのものが写真であると、こういう成分がこんな色なんだなという。そうすると、物を覚えるときに関連づけて覚えるような気がします。  
 実際その実物の元素を取り出すというか、そのものを見るということが授業の中でやはり難しいということもあるところで、この専門的な写真つきだとすごく子供たちはやはり興味を示しますし、本当に子供たちが呪文のように家で覚える様子を聞いているので、そういう意味ではこれは一つ決定的な大きな違いで、取りかかりやすいというか。
- [ ] : 東京書籍のほうも、2年生のほうに、どのような製品の素材となっているかという見開きページがあります。こうしたとり上げ方も効果的だと思いますが。
- [ ] : 私は全体としては、写真とか視覚的な効果は啓林館のほうが豊かかなという気が、判の大きさを生かしてある。
- [ ] : 理科が横に広がっていると、世界が広がるという感じがします。
- 津森教育長 : いろいろご意見が出ましたが、それぞれに意見をまとめていただけますか。いかがですか。ご意見ください。  
 東京書籍を推される方、挙手をお願いします。啓林館を推される方は挙手を。1対4ですね。それでは、理科は啓林館ということでもよろしいですか。
- 委員 : よろしい。
- 津森教育長 : それでは、最後にもう一度全体の確認をしてみたいです。  
 国語は東京書籍とすることでもよろしいですか。
- 委員 : よろしい。

- 津森教育長：採択理由としては、両者とも甲乙つけがたいところであるけれども、やはりまとめ、振り返りに工夫があり、主体的な学びを引き出す意図がやはり東京書籍のほうがあるだろうということになるかと思えます。  
次に、書写でございます。書写は三省堂でよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：採択理由は、生活と密着しており、筆使い等を把握しやすく、自分が練習できる工夫もあり、サイズも適切であるということになるかと思えます。  
社会は、地理的分野、歴史分野、公民分野、この3つとも東京書籍ということでもよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：採択理由は、非常に多くの情報量をわかりやすく記載をするのと、それからまとめの活動が非常に主体的な学びができるような形がしてあったということです。地図は帝国書院ということでもよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：採択理由については、地図が大きくはっきり細部まで表現できていると。しかも軽量であるということでもございます。  
続いて、数学は東京書籍ということでもよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：採択理由は、生徒が同じ過ちを繰り返さないための工夫や配慮に大きな長所があったと。それと、デジタル教材が充実をしていたということになるかと思えます。  
続いて、理科です。理科はいろいろ議論いただきましたが、第2推薦のほうの啓林館ということでもよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：採択理由としては、非常に理科の好きな子供、これからどんどん興味や関心を引き出すのに優れた図版、解説、あるいは写真等が充実しているということになるかと思えます。  
音楽でございます。音楽は、一般、教育芸術社ということでもよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：この採択理由は、基礎、基本が着実に定着でき、本市が力を入れている合唱指導において活用しやすいということ。なお、歌詞が縦書きで意味がよくわかるということも申されました。  
続いて、音楽の器楽、これも教育芸術社ということでもよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：打楽器など説明が充実していたり、主体的な学習が行えるポイントがよく示されているということです。  
美術です。これは光村図書ということでもよろしいですか。
- 委員：よろしい。

- 津森教育長：採択理由は、図版がより美しく表現と鑑賞というのを一体的に学ぶような工夫があるということが大きな理由でございます。  
保健体育は大修館ということでよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：採択理由は、感染予防あるいは薬物等についての記載が充実しているということと、非常に読みやすく、レイアウトが興味を引くということです。  
技術家庭の技術、これについては東京書籍ということでよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：採択理由は、紙面構成が非常にわかりやすく、主体的な学びにつながる工夫があるということになると思います。  
家庭分野は、それも東京書籍ということでよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：採択理由は、蒸し器云々の話もありましたけれども、防災手帳などの工夫、蒸し器がない場合の調理法など、生活の自立に必要な内容が非常に多くあったということです。  
英語でございます。英語、これは三省堂ということでよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：採択理由は、東京書籍のほうも丁寧ではあるが、ちょっと詳しすぎる、三省堂のほうが適切な分量、すっきりした内容構成があつて、登場人物等も一貫しているということでありました。わかりやすいと、教えやすいだろうということです。  
最後に、道德でございます。道德は東京書籍ということでよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：採択理由は、考え議論する道德の中で、多様な価値観を引き出す工夫があること。加えて、生徒の自由な発想を促して、授業を通して主題に導く工夫があると。そうした結論となりました。整理をさせていただきましたけれども、以上の中身でよろしいですか。
- 委員：よろしい。
- 津森教育長：ありがとうございました。  
それでは、事務局はこれまでのところをきちんと整理をしていただいて、報告等の手続を怠りないようお願いをいたします。  
事務局からそのほか何かありますか。
- 小川学校教育部長兼指導課長：本日は長時間のご審議、どうもありがとうございました。本日は非公開としてご審議いただきました。  
今後の予定のことでございますけれども、採択結果及び採択の理由、そして調査研究報告書、それから教育委員会会議の議事録、その他有用と思われる情報につきましてはホームページのほうで公表いたします。  
なお、委員の皆様のお名前はこれまでどおり伏せて公開するというところでよろし

くお願いいたします。

- 津森教育長：では、今の件につきましてはよろしいですか。それでは、そのように進めさせていただくということでいいですね。

なお、教科用図書採択は8月31日が期限になっておりますので、ここは公開時期については9月以降に公表するということですか。

- 小川学校教育部次長兼指導課長：はい。9月1日の時期に考えております。

- 津森教育長：わかりました。それでは、本日の資料全て回収をさせていただきますので、机の上に置いたままにしてください。

大変長時間、熱心な議論ありがとうございました。皆さんお疲れさまでした。

それでは、会議を閉会いたします。

閉会 午後5時10分